

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990600013		
法人名	特定非営利活動法人 信貴山やすらぎ会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	奈良県生駒郡平群町菊美台1丁目206-1		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhvu_detail_2017_022_kani=true&JiqvosvoCd=2971400144-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成30年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな高台に立地し、生駒山が一望でき、近隣には大型スーパーや平群町北公園があり日々の散策に活用させて頂いており、地域のボランティアサークルの方々の協力を頂き、コーラス・フラダンス・民謡の会・お茶会・手品・歌声会等様々の場面で交流を図っており、地域サークルならではの入居者様と面識がある方も居られ旧交を温めていただいたり楽しんで頂いています。四季折々の行事も積極的に開催し、入居者様に季節感を感じていただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある事業所は、完全バリアフリーで木の香も残るとも綺麗な木造平家建で、山々を一望でき閉塞感の無いゆったりと寛げる静かな環境にある。また近くにはスーパーもあり、最寄駅からも徒歩5分と近く家族等が訪ねやすい生活利便地でもあり、訪問する家族も多い。地域の行事には積極的に参加して地域との交流が保たれている。口腔ケアには力を入れており、週1回歯科医師による専門的なケアが行われている。経験年数の長いスタッフが多く、常に利用者の立場に立って一人ひとりの意向を押し量ってやすらぎと生きがいを感じて過ごせるよう職員は日々努力している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の玄関や、スタッフルームに「理念」「運営方針」「介護規範」を掲示し、いつでも管理者と各職員が見れるようにしている。	事業所が目指す理念や運営方針を、玄関と更衣室に掲げ日々の支援の中で確認するようにし、利用者の住まいとして家庭的な環境の下で自立を促す支援を心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所は、町の自治会に参加し又は地域で活動されているサークルの皆さんがボランティアで行事に参加され、地域交流している	自治会に加入し、地域のカラオケ大会を事業所で開催したり、フラダンスや手品などの地域サークルの皆さんに訪問要請をするなど地域交流が持たれている。地域の要望によりAEDの貸出しに応じる用意もしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	救急時には町の自治会にAED貸し出す予定もあり、地域ネットワークの皆さんが訪問され地域で出来ることはないか相談におみえになったりしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会に参加し町役場・社協・包括支援センター・自治会・近隣の他事業所からご参加頂き、現状報告、話し合いの中で意見を頂きサービス向上に生かしている	運営推進会議は、町福祉課職員・自治会長・地域包括支援センター職員・家族代表・他の介護事業所職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の活動報告や、よりよい介護方法等の建設的な意見を頂き話し合い、サービス向上に前向きに取り組んでいる。	会議では、身体拘束等様々な課題について意見交換を行なうなど、有意義な会議となっており、参加のない家族や地域住民に会議への参加を促す取組みと、運営推進会議が認知症ケアの情報発信の場として地域の拠点となることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて当事業所の実情、サービス見えていただき解らない事などを積極的に伝えご協力をいただいております	町福祉課職員参加の運営推進会議で利用者や事業所の近況を報告している。町と連携して徘徊パトロールも行っており、介護保険制度の改正等で不明なことがあれば相談に出向き、行政の担当者との連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修を通じ身体拘束について正しい理解を深め、身体拘束をしない自立支援に取り組んでいる	身体拘束等適正化対策委員会を設置し、身体拘束をしないケアの研修を行い、言葉による拘束にも注意し身体拘束をしない介護を職員へ周知徹底を図っている。昼間の玄関は常に開放しており出入りが自由にできる状態になっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を通じ高齢者虐待防止についての理解を深めている。管理者は不適切なケアが行われていないか利用者の様子、職員の意見を見逃ごさないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、以前利用されていた方がおられ職員も理解し、成年後見人の必要な利用者様に活用できるように支援しています		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては契約書・重要事項説明書を良く説明し理解、納得をしていただいています		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が訪問時に御意見、要望などあればお聞きし運営に反映し改善点を明示し理解して頂けるようにしています	利用者の家族等が意見や要望を伝えやすいように匿名での意見承り箱を玄関に設置し、また訪問される家族も多く職員からの声掛けで要望等が言いやすい環境づくりが出来ている。運営推進会議でも家族の意見を聴いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は管理者吸い上げ管理者から代表者に要望し反映させています	職員の意見や日々の気付きを連絡帳に記載したり、管理者に直接伝えるなど意見の言い易い環境が出来ている。ヘルパー会議も年1回あり、職員の意見や気づきがより良いサービスに結び付くよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の実績、勤務状況を把握し、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修しケア向上に努めてます		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者やケアマネージャー等の方々と訪問・連絡を取り合い意見交換をさせていただいております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前後で、本人様とコミュニケーションを十分にとり、本人様が安心してサービスを受けられるように努めています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前からご家族様と話し合いを行い、ご家族様に安心して頂けるように努めています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様が各サービスを利用したい後希望があれば出来る範囲での対応に努めています		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員が入居者様に寄り添い共に作業をしたり会話を楽しんだりしお買い物の希望があれば同行させていただいています		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時間は定めずいつでも訪問いただけるように配慮しています。現在利用者様のご家族様が毎日見えられ、施設の運営・介護の方針への理解を深めています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの方達やご親戚の方がご自由に訪問して頂けるように、環境を整え支援に努めています	訪問される家族が多く毎日訪ねられる家族もあり、訪問し易い環境づくりに努め、馴染みの関係が継続するよう支援している。電話を取次いだり、自宅近くへドライブするなど思い出や馴染みの場所の関係を断ち切らないよう支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席のご近所同士に話題を提供したりぼつんとされている入居者が居られたらスタッフが積極的に声掛けをさせて頂き孤独感を味わわないように支援しています		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用いただいていたご家族様より入居者様の近況を連絡いただける事があります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが入居者様個々について会話や家族様よりの情報等で把握し検討しています	利用開始前に家庭訪問を行い、利用者や家族との面談で生活歴、思いや意向を把握している。日々の関わりの中で利用者一人ひとりの希望や思いの把握に努め、情報を連絡帳に記録し職員間で共有している。同じテーブルの利用者同士の仲たがいを表情等で感じとり席替えをした事例がある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や習慣を家族様よりお聞きしサービスに役立てています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に拝聴した内容に沿って現状状態を把握に努めています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や主治医、当事業所の看護師、各医療機関と連携しプランに反映できるよう努めています	業務日誌、連絡帳、看護・介護記録などをもとに家族の意見も聴き、主治医、看護師と連携してケアマネージャーが介護計画を作成している。また必要に応じて介護計画の変更も行っているが定期的なモニタリングがなされていない。計画も日常生活動作が中心になっている。	アセスメントシート、介護サービス計画書の様式が身体介護が中心になっている。利用者の生きがいや生活の目標も記載できる様式に改善し、その人らしい笑顔が増える介護計画書となることを期待する。また、6ヶ月ごとの定期的な計画の見直しの取組みを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様のケース記録等で心身の状態、食事、排泄状態等を把握し情報の共有を図り、サービスの変更がある時は連絡帳等を活用しています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況変化については家族様訪問時に拝聴または報告し柔軟に対応させていただいてます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園へ散策に出かけたり、スーパーへスタッフと一緒に買い物に出かけたり支援しています		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力いただいている医療機関にて往診や受診をさせて頂いています	利用者全員が事業所の協力医を主治医としており、2週間に1回の訪問診療と随時の往診にも対応している。協力医の紹介状で専門医の受診もでき、歯科医の口腔ケアが週1回、皮膚科と眼科の往診が月1回ある。週2～3回非常勤の看護師による健康管理も行われ充実した医療体制が出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が日々の健康管理に目を配りご利用者個々の健康状態を把握し、管理者・職員も入居者の体調変化があれば相談しホームドクターに指示を求めたり受診・往診につなげています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連携医療機関も有り、検査・入院に際してはホームドクターよりの紹介状も頂き適切に対処できるよう支援しています		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に際しては家族様の意向を書面にて記載頂き家族さまの意向に沿うように努め当事業所内でも看取りケアにおけるマニュアルを作成し職員研修を行い家族様にも説明できるように取り組んでいます	看取りに関する指針が文書化されており、利用開始時に利用者や家族に説明し事前に意向を確認し、同意書ももらっている。重度化した時点で、主治医と話し合い、医師・訪問看護師と連携して本人、家族の気持ちに寄り添った看取りの支援が行われている。看取りに関する情報を職員間で共有し、チームで看取りの支援に取り組んでいる。今年は3名の方の看取りを行った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命研修を行い各職員にも初期対応の重要性を再確認しそのときに備え緊急連絡網を作成しております		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い各職員に周知徹底を行っています	防災マニュアル・非常時対策計画書を作成し、年2回消防署の指導の下で利用者も参加しての避難訓練が行われている。地域からAEDの貸出要請を受け、また事業所を災害時の地域の避難場所として申し出るなど地域との相互の協力体制ができている。飲料水や食料の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の尊厳を尊重しながら、プライバシーを損ねない声掛けを実践しています	職員は、利用者一人ひとりに対してさりげない介助を心掛け、声掛けに関しても嫌な思いをさせないよう配慮している。利用者への呼びかけは「さん」付けで呼び、馴れ合いにならないよう自然体で接している。排泄支援でもさりげなく誘導するよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が今どうしたいのか耳を傾け出来るだけ本人様の意に添うように努めています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活リズムを大切にできるだけ希望に沿ったサービスができるよう努めています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の身だしなみには気くばりをし、本人様の意思を尊重し支援しています		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と供に配膳や後片付けが最近出来なくなってきましたがおやつ作り等は出来るだけ一緒にする様に努めています	食事前にはバタカラ口腔体操を行い、誤嚥をしない食事を支援をしている。朝食はパンと職員手づくりのスープ、昼食と夕食の主菜は給食業者が調理済みの料理を提供している。ご飯は事業所で炊き、ご飯をちらし寿司やいなり寿司に変えたりして食事を楽しんでいる。外食は利用者の重度化が進み出来ていない。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記載している食事量、水分量を確認して一人一人の状態を把握し、習慣に応じた支援しています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんのこと、毎週歯科往診を協力歯科にお願いし口腔内の錠齧や義歯の状態等を診察していただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄時間を記載し排泄時間を把握しトイレ誘導を行い、また個々のトイレサインを見逃さず誘導するように努めています	トイレでの自然排泄を基本として利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、排泄サインを見逃さないように心掛け、適切なタイミングでトイレ誘導を行い、おむつを使用しない支援に努めている。夜間ポータブルトイレを利用している方が2名いる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し便秘薬、水分量や個々に応じた運動をしていただけるように対応しています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴希望やタイミングに沿って、楽しく入浴できるように支援しています	入浴は週2回を基本とし、利用者ごとにお湯を入れ替えて好みの温度でゆっくりと入浴をして頂くようにしている。入浴拒否利用者には時間をおいて声掛けするなどの工夫をしている。理美容の日は、全員シャワー浴をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を理解し、安心して眠られるよう支援しています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各スタッフがいつでも閲覧できるように変更時や追加薬については病診記録や連絡帳にて周知し毎日定時にバイタルチェックを行いホームドクターよりの指示を頂き対応しています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でスタッフとの散策や買い物、洗濯物のたたみ等を行ってもらったり、色塗りや折り紙等を楽しんで頂いています		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診時の外出支援、馴染みのある場所への外出支援、近隣の公園への散策、ご家族様との外出・外泊などの支援をしています	利用者の重度化が進んでおり、毎日の散歩は難しくなっているが、敷地内の畑へ出たり、おやつを戸外で食べるなど外気に触れる機会を増やせるよう心掛けている。春と秋には季節の花見に馬見丘陵などに全員で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様やご本人よりの強い要望があれば金銭所持を認めますが必要な物があればご家族様へ連絡し持ってきていただくか事業所にて購入させて頂いています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解があれば事務所からのお電話させて頂いていますし個人持ちの携帯電話をお持ちの方もおられます。また、手紙やはがき等のやり取りの支援も行っております		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を感じていただけるよう配慮し採光も良く都度温度・湿度に気を配り居心地良く過ごして頂けるよう配慮させて頂いています	居間は吹き抜けで天窗から明るい日差しが入り、広くゆったりとしている。壁には手作りカレンダーや利用者の写真が飾られており、無用な飾りつけもなく利用者にとって不快な混乱や刺激がない様に配慮され穏やかにゆったり寛げる空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が心地よく過ごせるよう食事やおやつ等時にお席の配置を考慮したり、ソファーに移動しゆったりと過ごしていただけるよう配慮しています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具などを居室に持ち込んでいただき写真や観葉植物など置いたりし居心地良く過ごせるよう配慮しています	8畳強の室内には広いクローゼットが設えてあり、介護用ベッドと壁時計が備え付けられ、窓からは生駒山が一望でき季節を感じることができる。位牌を持ってこられている利用者もあり、家族写真や絵を飾り思い思いの部屋作りがされて居心地の良い空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すり等を設置し、車椅子の自走や歩行器でも安全なように配慮し個々の能力に応じた声掛けや支援を実施しています		